



盗難車が解体されたとみられる「ヤード」を捜索する捜査員ら（26日午前10時41分、神戸市西区で、本社ヘリから）＝関口寛人撮影

窃盗ハイエースの解体拠点

兵庫県内8か所捜索

7府県警

トヨタのワゴン車「ハイエース」を狙った窃盗事件で、兵庫、大阪など7府県警は26日、「ヤード」と呼ばれる解体作業場など兵庫県内8か所を一斉捜索した。ブラジル、ナイジェリア国籍などの外国人25人を逮捕しており、盗難車がヤードで解体され、不正輸出されたとみている。不法滞在の外国人らが頻繁に出入りしているともいい、兵庫県警はヤードが人犯罪の拠点になってきているとみて、27日に対策本部を設置し、実態解明に乗り出す。

県警によると、ナイジェリア国籍の自動車輸出業者カフォ・シェリード・サニー容疑者39（逮捕）らのケル

県で約500台（被害総額約5億7000万円）。県警などは日本人も含め計43人を逮捕し、外国人らの供述などから、盗難車が神戸市西区などのヤード10か所に持ち込まれていたことを突き止めた。サニー容疑者らが盗んだとされる2台も同県稲美町で解体中だった

という。県警などは、解体後の部品が神戸港や大阪・南港などからアフリカや中東などに輸出され、現地で組み立て直されているとみている。

ヤードは民家の少ない郊外に多く、周囲がコンテナなどで囲まれ、内部の様子は見えない。人目に付きにくいいため、不法滞在の外国人らが集まり、組織犯罪の温床になっている可能性があるという。来秋には横浜市でアジア太平洋経済協力会議（APEC）の首脳会議が開かれるため、県警幹部は「テロリストの潜伏場所にもなりかねない」と警戒。

県警は同県三木市別所町のヤードを捜索した際、外国人1人を入管難民法違反（不法残留）容疑で現行犯逮捕した。